

コロナ禍の「不確かさ」映像に込め

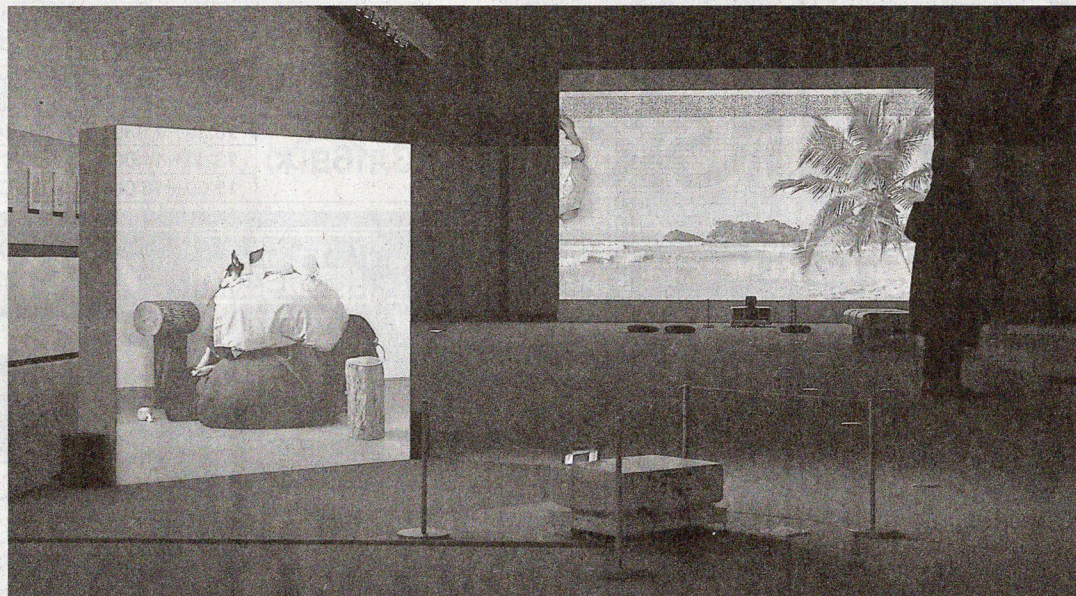
千葉出身ユニット

山下麻衣さん
小林直人さん

個展

千葉市出身のユニット「山下麻衣十小林直人」による個展「もし太陽に名前がなかったら」が3月21日まで県立美術館（千葉市中央区）で開かれている。映像作品を中心に、コロナ禍の時代を映した新作を含む57点が並ぶ。11日には2人のトークイベントがあり、「不確かさ」をテーマに作品に込める思いを語った。

（藤谷和広）



「山下麻衣十小林直人」もし太陽に名前がなかったら」の展示。いずれも県立美術館



山下麻衣さんと小林直人さん

日常と地続きのアート 追求

今回新たに発表したのは、山下さんが読み上げるアルファベットを小林さんが書き連ねていく、約13時間に及ぶ映像作品。約3万の文字列は、世界で最初に検出された新型コロナウイルスのゲノム情報という。約2千枚のガーゼマスクを自らミシンで縫製したスクリーンに、オンライン会議のバーチャル背景としてよく使用される画像とともに、映し出した。

「わからないものに対して人間がどうあらがおうとしているか、記録しておきたかった」と小林さん。「アートは日常から逸脱することで日常を問いかけるものだったが、3・11、そしてコロナ禍以降、今日と同じ明日が来るかわからない感覚がある。そのなかで何ができるかを考えている」打ち寄せる波を数える「1000 WAVES」（2007年）は、何を一つとするのかもあいまい

で、物事の「名付け」の意味を問うているようだ。一貫しているのは、自らの身体を通して自然を捉え直し、日常と地続きのアートを追求する姿勢。2019年の映像作品では、山下さんが夕日を背に自転車走り、車輪に「世界はどうしてこんなに美しいんだ」という文字が浮かび上がる。「美は、どこにでもある」（小林さん）

この年、あいちトリエンナーレで展示内容をめぐり世論が紛糾すると、すかさず「KEEP CALM」

ENJOY ART（落ちて、アートを楽しもう）の文字を走らせた。山下さんは「日常で感じる疑問、思考がそのまま作品になっている。ただ、作品で解決しようとは思わない。一緒に考える場になればいい」と語る。

こうしたアイデアはどう生まれるのか。普段持ち歩いているノートの表紙を描いた絵画シリーズも展示されている。何が書かれているのかはわからない。「想像する行為自体がアートです」（山下さん）

子どもたち、ロックって

旭市の市多世代交流施設で5日、子ども向けの「東総ROCK道場」が開かれ、プロのベーシストからベースの弾き方を学んだ。

「子どもたちに音楽の楽しさを伝えたい」と、横芝光町出身の依知川伸一さん(61)が無料で開催。園児と小学生の部には4人が参加し、音の出し方を教わった。みんな初心者だが、1時間のレッスンの最後には童謡「きらきら星」を演奏できた。

市内から兄弟で参加した後藤邑輔さん(9)と勸汰さん(6)は「初

プロからベースレッスン

旭の交流施設

めて触った」横芝光町依知川伸一さん(61)が無料で開催。園児と小学生の部には4人が参加し、音の出し方を教わった。みんな初心者だが、1時間のレッスンの最後には童謡「きらきら星」を演奏できた。

大網白里・リサイクル店事件

強盗致傷容疑で

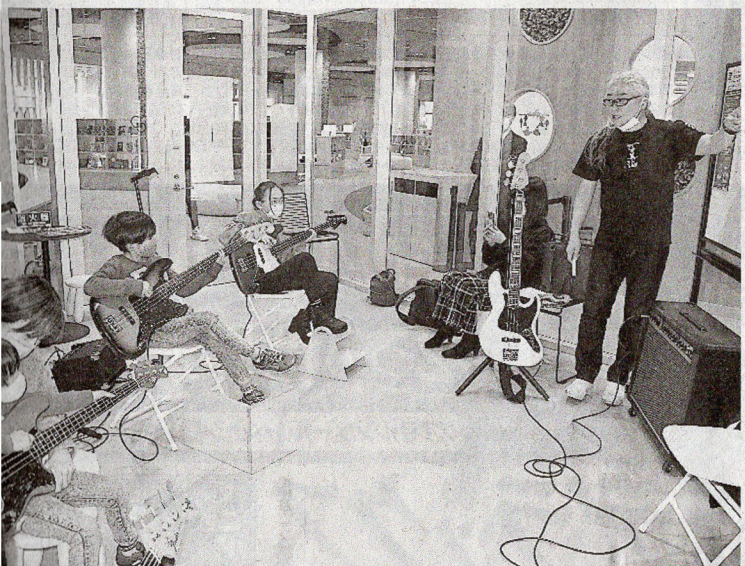
2人の逮捕発表

大網白里市のリサイクル「謀し」、1月12日午後7時25分ごろ、大網白里市駒

押し入り、店主の男性(76)の顔を殴って「金庫はどこだ」などと脅し、金品を奪おうとした疑いがある。男性が応じなかったため、何もとらずに逃走。男性は両ほおの骨を折るなどのけがを負ったという。

事件後、犯行に使われたとみられるレンタカーが現場周辺で見つかり、近くに

取。防犯カメラの映像などから作田容疑者が浮上した。県警は少なくとももう1人の共犯がいるとみている。中桐被告の携帯電話には東京都狛江市で起きた強盗殺人事件の被害者の住所を記したメッセージが残されており、各地で相次いだ強盗事件との関連を調べている。



ベーシストの依知川伸一さん(右)がレッスンを受ける子どもたち=旭市